学　校　便　り　　琢磨

第４２号　R3.2.4 三豊市立詫間小学校

新HP https://mitoyo.schoolweb.ne.jp/mitoyo/takuma-e/

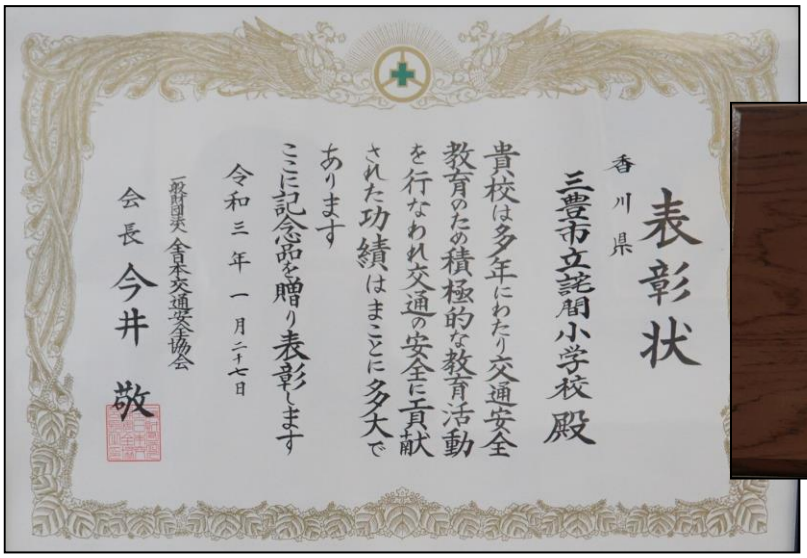
交通安全全国表彰を受けました！

詫間小学校は、全日本交通安全協会から「交通安全優良学校」の表彰を受けました。今年は、全国の小・中・高等学校から、４６校の学校が表彰され、香川県からは本校だけが選ばれました。

２月１日。私が代表して、三豊警察署の署長室で、三豊交通安全協会の鴨田会長様から表彰状を、三豊警察署の片松署長様から楯の伝達を受けました。本来なら東京都で表彰式が行われるはずだったのですが、コロナ禍ということで中止となり、このような形で表彰状が伝達されたのです。

これも、交通安全に気を付けて登下校したり、自転車に乗ったりしてくれている児童の皆さん、毎日、登下校の様子を見守ってくださっている安全パトロール会の皆様や、保護者の皆様のおかげです。詫間小学校では、過去５年以上、交通事故は１件も起きていません。

今後は、「交通安全優良学校」という自覚をもって、さらに交通安全に関する意識を高めていきたいと思います。おめでとうございました。ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。



新メールシステムに登録ください。

今週の月曜日に、保護者の皆様にはご案内したところですが、現在のメール配信システム「マチコミメール」は、２月末をもちまして配信を中止し、新メール配信システム「C4th Home & school」に移行いたします。

新メール配信システムは、令和３年度より、三豊市内の全ての小・中学校で運用していくものです。児童個人のアカウントやパスワードがあります。本校のホームページともリンク（例えば、ホームページが更新されたらメールでお知らせが届く）しております。

２月中は、現在の「マチコミメール」と新メール配信システム「C4th Home & school」の両方で配信していきますが、３月からは、新メール配信システムのみの運用となりますので、大変ご面倒をおかけしますが、２月中に登録いただけますよう、よろしくお願いいたします。

おじぞう様の思い出

私の家のすぐ近くには、高瀬川が流れています。高瀬川は、皆さんが住んでいる詫間町から海に流れこむのですが、高瀬町の高瀬川の川幅は、皆さんが見ている川よりもかなりせまいです。

私の家から５分も歩けば、高瀬川に着きます。そこには、短い橋がかかっていて、橋の手前には小さな公園、橋を渡った所には、おじぞう様があります。私は幼い頃、この公園で、隣の学校の子どもたちと、よく遊んだものです。

話は少しややこしくなります。私が通っていた学校は勝間小学校です。私の家は、同じ自治会では、一件だけ離れた所にありました。正確に言えば、小学校に通っている子どもがいる家としては、自治会内では、一件だけ離れた所にありました、となります。しかし、私の家の近くには、たくさんの子どもたちが住んでいました。お向かいは、歩いて５歩。でも、学校は上高瀬小学校なのです。簡単に言えば、校区と校区の境目に住んでいた私、そして、近くに住んでいた子どもは、全て、他の学校の子どもだったということです。

とにかく、５～６人の子どもたちが集まって、その公園で遊んだものでした。「ガキ大将」という言葉を聞いたことがありますか？そのグループのリーダーみたいな人です。近所の子どもが集まりますと、その中で一番年上の子どもが、大きな権力を持つことになります。民主主義、話し合いなど成立しません。その大将が決めたことが、絶対なのです。そんなのおかしい！と皆さんなら思うでしょうが、今から５０年も前の話です。それが当たり前でしたし、それはそれで楽しかったのです。安心していたのです。言い忘れたら困るのは、大将は、この仲間の責任者でもありました。ですから、遊んでいてけがをした子どもがいれば、大将は、その子をおんぶして家まで運び、家の人に謝り、そして叱られる役もしっかりと果たすのです。違うグループとけんかになった時は、大将が「俺の仲間に手を出すな！」と、体を張って守ってくれたのです。私が小学校に入学するかどうかという時期、リーダーの小学校５年生や６年生は、当時の私から見たら大人で、あこがれの存在でもありました。

さて、事件は起こりました。いつも遊んでいた公園から、小さな橋を渡りますと、おじぞう様がいらっしゃいます。その前には、いつもお菓子がお供えしていたのです。大将からは、「ええか、おじぞう様のお供え物には、絶対手を出したらいかんぞ。バチが当たるからな。」と言われていました。そう言われると、ちょっと手を出してみたくなるのです。おいしそうなおまんじゅうやら、おかきやらが、いつもお供えしてあって、私は子どもながらに、おじぞう様は絶対に食べないと知っていたものですから、せっかくのお菓子ですから、おじぞう様の代わりに、食べてあげようと思ったのです。いや、単に食べたかったのですが…。仲間がいたら、絶対に止められますので、みんなが集まる前に、そっと一人で食べてしまったのです。でも、そのことを自分一人の胸の中にはしまっておけずに、私は、同い年の友達にそっと打ち明けたのです。「誰にも言わんとってよ。」と。でもその話は、すぐに大将の耳に入りました。大将は、私を叱りはしませんでしたが、厳しい私の祖母に言いつけてしまったのです。（今考えると「言ってくれたのです。」となります。）

それから１か月。私は、祖母と一緒に、毎日おじぞう様の所に通いました。

「おじぞう様、どうか、このバカな孫を許してください。この子は、バカなことはしますが、根は優しい人間です。どうかこの通り、お許しください。こら、お前も頭下げんか！」

と、おじぞう様の前で正座し、毎日、毎日、同じことを繰り返しました。その行事が終わると、祖母は一人、家に帰って瓦屋の仕事に戻り、私は、いつもの仲間たちと合流して公園で遊ぶのです。

私が小学校の高学年になった頃から、このグループは自然に消えていきました。近所に子どもが少なくなったからというのも要因でしたが、近所というよりは、同じ学校の友達と遊ぶことが多くなったからでした。もし、私がこのグループの大将になっていたら、おそらく最初に、言ったと思います。「ええか、絶対におじぞう様のお供え物には手を出したらいかんぞ！大変なことになるからな！」と。